

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

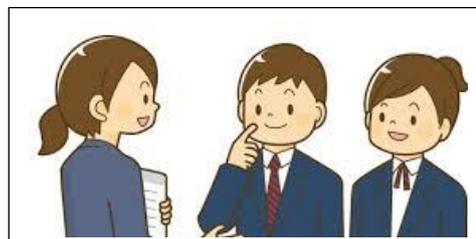
【取組1】(A中学校)

今年度より、昼休みに体育館の開放を行っている。昨年、生徒会役員の生徒が中心となって企画立案したものである。生徒たちは、みんなが気持ちよく体育館を利用するためには何が必要か、何に気を付けるべきかを軸に話し合いを重ね、自分たちでルールを作った。教員側は生活指導部が中心となり、生徒たちの声に耳を傾け、アドバイスをしながら見守る体制をとった。現在は、自分たちで決めたルールを守り、声を掛け合いながら、楽しむ姿が見られる。昼休みの体育館開放を楽しみにしている生徒も多く、自分たちで居心地の良い、楽しい学校を作っていこうという意識が生徒たちに芽生えるきっかけともなった。

【取組2】(B中学校)

「チーム制を生かした学年経営」として、週ごとに担任と副担任とが入れ替わる「チーム担任制(学年担任制)」を2学年で取り入れた。主な目的は、「複数の教員の目で、より多角的に生徒を理解、支援していくこと」また、「様々な教員の価値観に触れながら、1人の担任に依存することなく、生徒たちの力で学級づくりや人間関係を築き、より主体性を育てていくこと」である。生徒たちは、普段とは違う先生とのコミュニケーションを楽しんでいる様子が見られる。

また、合唱コンクールも学年全体で頑張ろうとする様子うかがえる。生徒側にも教員側にも新たな気付きがあり、効果的な取組だと言える。



【取組3】(A中学校)

ポスターセッションを全学年で実施している。各班で意見を出し合い、試行錯誤する姿が見られた。班でまとめた考えだけでなく、各自が自分の見解を発表する様子も見られた。相手の話を聞き、質問をし合いながら自分の考えを深めることができた。また、発表中に友達に困ったことが起きたときは、自然とカバーし合う姿が見られた。お互いの得意不得意を理解し合って補い合うことができる授業である。

【取組4】(A中学校)

研修キットを利用した校内研修をA中の実態に応じた内容に組み替えて実施した。不登校生徒や校内別室運営に対する理解が深まるきっかけになった。また、同じ事例で話し合いをすることで、互いの考えを共有することができた。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（B中学校）

1学期間中に欠席、遅刻・早退が10日以上だった生徒の現状と今後の支援について校内委員会で話した。

欠席生徒への初期対応についてのマニュアルを作成し、対応することを提案することができた。

アウトリーチによる支援（C中学校）

校内別室の紹介を保健室だよりに載せ、保護者や生徒に周知した。また、SC面談の際には、校内別室を案内してもらい、校内別室の概要を説明する機会を作った。また、支援会議にて、家庭と子どもの支援員が家庭訪問をする必要のある生徒について検討し、定期的に家庭訪問を行っている。

校内別室における支援（B中学校）

自分で学習が進められない生徒に対して、何をどのように進めていくのか、学習計画を一緒に立てた。また、周りの音が気になる生徒に対して、机の下にヨガマットを敷き、物音が出ないように環境を整えた。校内別室での様子を職員室でも共有できるように、校内別室の時間割を職員室内に貼り出した。さらに、集中して学習する時間と、SSTをする時間とを明確に分けた。



デジタル機器を活用した支援（A中学校）

全9教科でオンライン授業を実施している。小テストや単元テストも教室と同じタイミングで実施している。授業の前に、各教科担当と別室担当教員とで、プリントの使い方や作業の進め方をあらかじめ相談しておくことで、オンライン授業の効果を最大限に生かせるように連携している。

関係機関との連携（C中学校）

特別支援教室、教育相談室、SC、SSW、子ども家庭支援センター、児童相談所、家庭と子どもの支援員等の関係機関と連携し、支援を行っている。

成 果

それぞれの学校の運営方針や実態に応じた校内別室での支援の方法を考えることができた。校内別室での過ごし方を明確にしたことで、生徒が安心して過ごせる環境が整った。

課 題

各生徒にとってより効果的な支援をするためにも、支援員任せにするのではなく、教員が支援員と連携していく必要がある。